

## ■ 概況

9/16～9/22のNYMEX・WTI先物市場は、70.29～72.61ドルの範囲で推移した。

9月23日は、ハリケーン被害の復旧が遅れる中、前日の米国原油在庫の報告が7週連続の取り崩し、約3年ぶりの低水準の在庫であったことから、先行き需給のひっ迫感が意識され続伸した。11月限の終値は前日比1.07ドル高の73.30ドル。

週末24日は、このところの需給ひっ迫感に加え、OPECプラス産油国のナイジェリア・アンゴラ・アゼルバイジャン等で減産緩和による増産が停滞しているとの報道があり、続伸した。なお、米国内の稼働中の石油掘削装置は前週末比10基増の421基。11月限の終値は前日比0.68ドル高の73.98ドル。

週明け27日は、引き続き、原油需給のひっ迫感の中、ゴールドマンサックスが3か月の短期原油価格見通しの上方修正を発表し、5営業日続伸、終値ベースで節目の75ドル台を記録した。11月限の終値は前日比1.47ドル高の75.45ドル。

28日は、このところの高値による利益確定売りに加え、為替市場のユーロ安・ドル高で原油先物の割高感が意識され、6営業日ぶりに反落した。11月限の終値は前日比0.16ドル安の75.29ドル。

29日は、米国エネルギー情報局の在庫週報で、原油在庫の予想外の大きな積み増しが報告され、需給緩和感の拡大から続落、節目の75ドルを割った。11月限の終値は前日比0.46ドル安の74.83ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（11

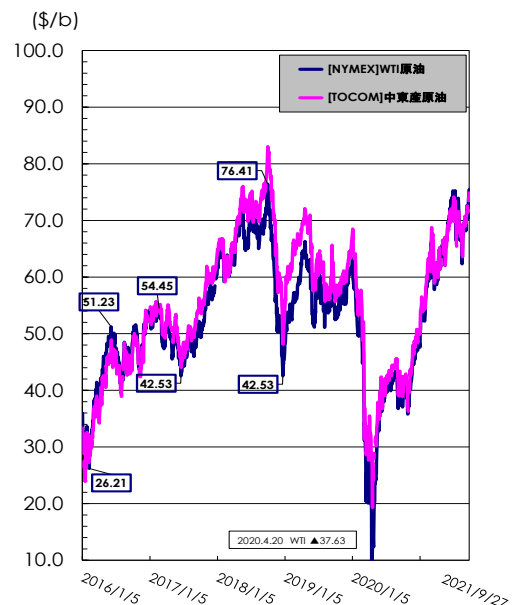
月渡し）は、9月16日～22日の間、72.50～73.40ドルの範囲で推移した。9月24日75.20ドル、27日76.40ドル、28日77.70ドル、29日74.80ドルで推移した。

為替は9月16日～22日の間109.22～109.81円の範囲で推移した。9月24日110.41円、27日110.75円、28日111.04円、29日111.65円で推移した。

財務省が9月29日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、9月上旬の原油輸入平均CIF価格は、51,059円/klで、前旬比269円高、ドル建て73.94ドルで前旬比0.63ドル高、為替レートは1ドル/109.79円。

そのような中で、9月27日時点の小売価格は、ガソリンが前週（9月21日）比0.3円の値上がり、軽油も同0.3円の値上がり、灯油は同4円の値上がり（18%ベース）だった。ガソリンは4週連続の値上がり、軽油も4週連続の値上がり、灯油も4週連続の値上がりだった。この週（9月第4週）の原油コストは値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比1.5円の値上げとなった模様。

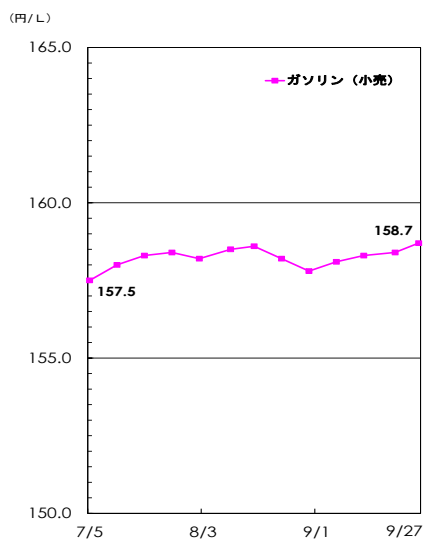
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	9/19 ~ 9/25	2,796 ▼ -56	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	72.7 ▼ -1.4	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	9/25	9,116 ▼ -671	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	9/27	74.89 ▲ 3.42	▲ 33.2
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	9/27	75.45 ▲ 5.16	▲ 34.9
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月上旬	73.94 ▲ 0.63	▲ 27.69
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	51,059 ▲ 269	▲ 20,234
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.79 ▲ 0.35	▼ -3.84
	外国為替TTSレート (¥/\$)	9/27	111.75 ▼ -1.18	▼ -5.38



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/19 ~ 9/25	871 ▲ 11	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	810 ▲ 64	▼ -	
	輸出	"	59 ▲ 59	▲ -	
	在庫	9/25	1,692 ▲ 1	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/21 ~ 9/27	67.9 ▲ 1.0	▲ 24.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/21 ~ 9/27	66.0 ➡ 0.0	▲ 27.1
		(TOCOM/中部)	9/27	67.0 ▲ 0.3	▲ 25.6
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/27	158.7 ▲ 0.3	▲ 24.0	

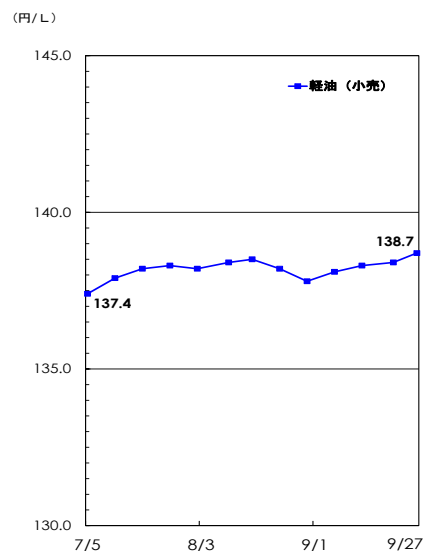
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

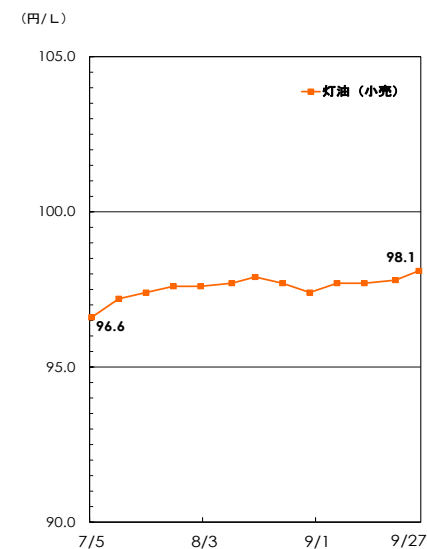
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/19 ~ 9/25	662 ▼ -69	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	499 ▼ -106	▼ -	
	輸出	"	147 ▲ 76	▲ -	
	在庫	9/25	1,547 ▲ 16	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/21 ~ 9/27	69.0 ▲ 1.0	▲ 23.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/21 ~ 9/27	70.1 ▲ 1.7	▲ 23.2
		(TOCOM/中部)	9/27	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/27	138.7 ▲ 0.3	▲ 23.4	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/19 ~ 9/25	211 ▲ 27	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	103 ▲ 51	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	9/25	2,486 ▲ 109	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/21 ~ 9/27	68.5 ▲ 1.0	▲ 23.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/21 ~ 9/27	65.9 ▲ 0.7	▲ 23.6
		(TOCOM/中部)	9/27	66.5 ▼ -0.5	▲ 23.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/27	98.1 ▲ 0.3	▲ 17.4	



■ 関連情報

1 海外/原油

9月29日のNYMEXのWTI先物原油は、米国原油の在庫増加を受け、続落した。この日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の米国石油在庫統計は、原油が前週比460万バレル増と市場予想(170万バレル減)に反する8週ぶりの在庫積み増しとなった。ハリケーン被害からの復旧進捗を反映したと見られるが、根強い石油需要もあり、売り買いが交錯した。ただ、市場関係者の関心は、10月初めのOPECプラスの閣僚協議の行方に移っている模様。11月限の終値は前日比0.46ドル安の74.83ドル、12月限の終値は0.40ドル安の74.50ドル。

EIAによると、9月27日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.9セント値下がりの1ガロン3.175ドル(93.6円/リットル)、ディーゼルは同2.1セント値上がりの3.406ドル(100.4円/リットル)となった。ガソリンは2週ぶりの値下がり、ディーゼルは2週連続の値上がりとなった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年9月19日～9月25日に休止したトッパー能力は31.5万バレル/日で、前週に対して6.5万バレル/日増加した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は279.6万klと、前週に比べ5.6万kl減少。前年に対しては4.7万klの増加。トッパー稼働率は72.7%と前週に対して1.4ポイントの減少、前年に対しては2.5ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油、A重油が増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/1.3%増、ジェット/18.6%減、灯油/14.6%増、軽油/9.5%減、A重油/23.0%増、C重油/38.1%減。今週のC重油の輸入は0.5万kl(前週比0.5万kl増)。軽油の輸出は14.7万kl(前週比7.6万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でガソリン、灯油、A重油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではA重油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は81.0万kl(対前週8.6%増)と2週連続で増加した。ジェット3.3万kl(対前週35.0%減)、灯油10.3万kl(対前週95.7%増)、軽油49.9万kl(対前週17.5%減)、A重油19.4万kl(対前週43.1%増)、C重油12.1万kl(対前週3.4%増)。

(単位:千kl)

	今週 (9/19 ~ 9/25)	前週 (9/12 ~ 9/18)	前週比	
ガソリン	810	746	▲ 64	(9%)
ジェット燃料	33	51	▼ -18	(-35%)
灯油	103	52	▲ 51	(98%)
軽油	499	605	▼ -106	(-18%)
A重油	194	136	▲ 58	(43%)
C重油	121	117	▲ 4	(3%)
合計	1,760	1,707	▲ 53	(3%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

9月25日時点の在庫は、ガソリン、灯油、軽油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては軽油、A重油、C重油が増加し、その他の油種で減少となった。

ガソリンは169.2万kl、前週差0.1万kl増。前年に対しては10.0万kl少ない。

灯油は248.6万kl、前週差10.9万kl増。前年に対しては36.2万kl少ない。

軽油は154.7万kl、前週差1.6万kl増。前年に対しては6.2万kl多い。

A重油は74.2万kl、前週差0.4万kl減。前年に対しては3.3万kl多い。

C重油は200.6万kl、前週差4.1万kl減。前年に対しては15.5万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (9/25)	前週 (9/18)	前週比	
ガソリン	1,692	1,691	▲ 1	(0%)
ジェット燃料	842	872	▼ -30	(-3%)
灯油	2,486	2,377	▲ 109	(5%)
軽油	1,547	1,531	▲ 16	(1%)
A重油	742	746	▼ -4	(-1%)
C重油	2,006	2,047	▼ -41	(-2%)
合計	9,315	9,264	▲ 51	(0.6%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

9月21日～27日の指標原油価格は前週(9月14日～9月20日)比で値上がりし、為替レートはわずかに円安で、円建ての原油コストは値上がりしたものと見られる。

次週(9/30～10/6)の大手元売卸価格は、9月積み中東産原油の調整金の値上げもあり、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社前週比1.5円の引き上げとなった模様。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

9月21日～27日の製品スポット市況は、9月14日～9月20日平均と比べ、先物・ガソリンの横ばいを除いて、他の全油種・全取引で値上がりした。

直近週(9/21～9/27)の陸上スポット価格平均値は、前週(9/14～9/20)比で、ガソリンは1.0円の値上がり、灯油は1.0円の値上がり、軽油は1.0円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(9/21～9/27)に、前週(9/14～9/20)比で、ガソリンは1.3円の値上がり、灯油は1.4円の値上がり、軽油は0.7円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油は0.7円の値上がり、軽油は1.7円の値上がりだった。

(RIM)		(単位: 円/%)		
(陸上ローリー4地区平均)	今週 (9/21～9/27)	前週 (9/14～9/20)	前週比	
レギュラー	67.9	66.9	▲ 1.0	
灯油	68.5	67.5	▲ 1.0	
軽油	69.0	68.0	▲ 1.0	

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
(期近物/終値) [平均]	今週 (9/21～9/27)	前週 (9/14～9/20)	前週比	
レギュラー	66.0	66.0	→ 0.0	
灯油	65.9	65.2	▲ 0.7	
軽油	70.1	68.4	▲ 1.7	

※上記価格は税抜き価格

参考値 (9/21～9/27実績値)				(単位: 円/%)		
油種	現物	先物	平均			
ガソリン	▲ 1.0	→ 0.0	▲ 0.5			
灯油	▲ 1.0	▲ 0.7	▲ 0.8			
軽油	▲ 1.0	▲ 1.7	▲ 1.4			
A重油	▲ 1.0					

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

9月27日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(9月21日)比0.3円高の158.7円、軽油も同0.3円高の138.7円、灯油は18%ペースで同4円高の98.1円(1%ペースでは同0.3円高の98.1円)。ガソリンは4週連続の値上がり、軽油も4週連続の値上がり、灯油も4週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは38都道府県、横ばいは5県、値下がり4県だった。全国最安値は152.8円の宮城県(同0.2円高)、その次は、153.1円の埼玉(同0.6円高)、他方、最高値は168.8円の長崎県(同0.4円高)だった。最も値上がりしたのは同1.8円高の愛知県(156.9

円)で、横ばいは大分県など5県、最も値下がりしたのは同0.4円安の千葉県(155.1円)と兵庫県(155.3円)だった。

今週(9月21日～27日)は、指標原油価格は値上がりし、為替レートは円安で、円建ての原油コストは値上がりしたものと見られる。次週(9月30日～10月6日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比1.5円の引き上げとなった模様。次回調査時(10月4日)のガソリンの小売価格は、値上がりが見込まれる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
	今週 (9/27)	前週 (9/21)	前週比	直近高値	
レギュラー	158.7	158.4	▲ 0.3	08/8/4	185.1
灯油	98.1	97.8	▲ 0.3	08/8/11	132.1
軽油	138.7	138.4	▲ 0.3	08/8/4	167.4

小売価格

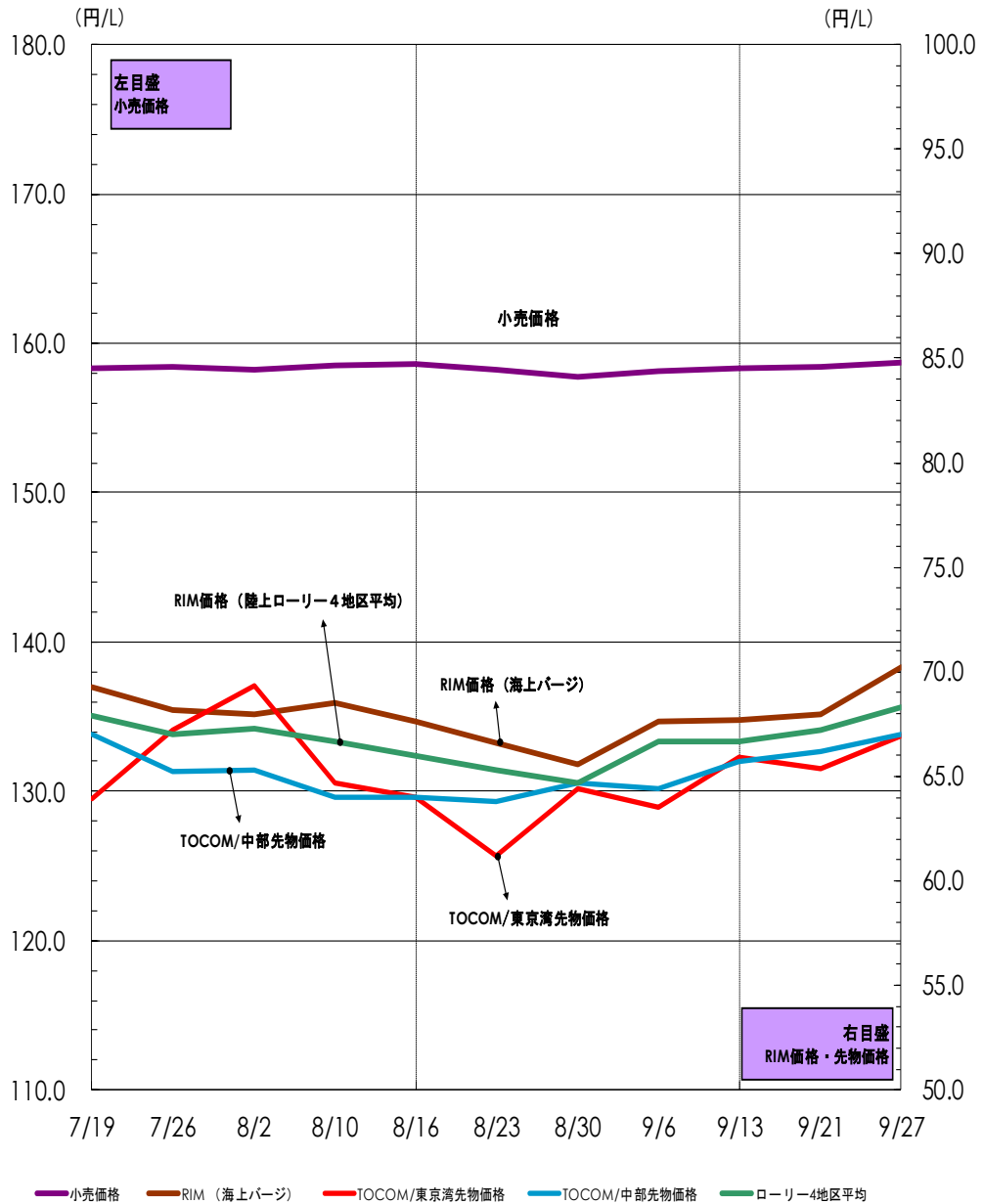
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2021/7/19 ~ 2021/9/27)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2021第26号)の公表は、10/8(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和3年3月末現在)は、8月25日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。